

■ Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン等における記載

- 「どのような表示サインにも国際的に認められたシンボルの利用が望ましい」
- 「文字やシンボルには、表示サインの背景色とコントラストのはっきりした色彩を用いる。背景色は単色が望ましい」
- 「人々を誘導するため通路に沿って掲示される道案内の位置表示サインは、同一経路内では、同じ色彩と触感にし、さらに同じ位置に取り付けるようにするのが望ましい」

■ これまでのWSにおける意見

- 「トイレは誰が優先という表示はいらず、備わっている機能のピクトを簡潔に表示」
- 「男女共用トイレのマーク等は工夫が必要」
- 「休憩室、休憩コーナーは、誰でも使える休憩所と勘違いされないような表示を」
- 「トイレ表示を赤→女、青→男という暗黙知だけに頼るのはよくない」

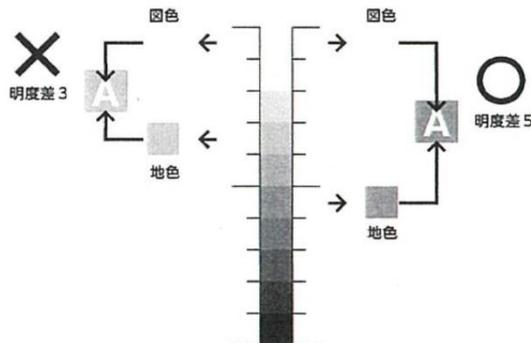


■ サイン計画（多言語対応、ピクトグラム、色彩）の考え方

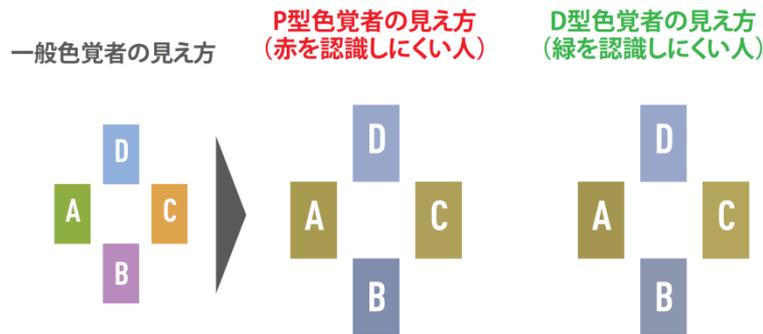
- 「多言語対応協議会」が定める「多言語対応の基本的な考え方」を踏まえ、日本語、英語、ピクトグラムにより表示。
- 英訳は、「国内外旅行者のためのわかりやすい案内サイン標準化指針（東京都策定）」を準用。
- ピクトグラムについては、国内で統一された規格であり広く用いられている「JIS基準」を採用。
※ 指針や基準に定めのない英訳やピクトグラムは、ISOなどJIS以外の基準や既存施設の検討事例を踏まえて計画。
- トイレと更衣室の場所を示すピクトグラムには色や文字を用いることとし、既存施設の状況を踏まえ、各施設で同じ配色とする。
- 周辺色とのコントラストは明度差5以上とし、色の選定に際しては、色弱者にも配慮する。



トイレ表示の例



コントラストへの配慮



色弱者への配慮の例